

平成24年度通常総会開催

豊かな心を育てよう、子どもたちの笑顔のために



発行所
〒107-0052 東京都港区赤坂
7丁目5番38号
社団法人 日本PTA全国協議会
発行人 武田岳彦
電話 03(5545)7151
FAX 03(5545)7152
ホームページアドレス
http://www.nippon-pta.or.jp/

綱領

本会は教育を本旨とする民主的団体であり、不偏不党・自主独立の性格を堅持し、PTAの健全な発展の維持、並びに青少年の幸福な成長を図ることを目的とする。

主な内容

1面	● 通常総会 ● 祝辞
2面	● 講話
3面	● 新会長挨拶 ● 新役員紹介 ● 議事承認
4面	● 心のきずな 61キャンペーン ● メッセージカード
5面	● 日中友好 「少年少女の翼」
6面	● 県P自慢 ● 学校の窓から
7面	● たのしい子育て 全国キャンペーン ● 民放連との 懇談会
8面	● 文部科学省 ● 京都大会の お知らせ ● PTA会長日記

安心して楽しく学べる環境づくりを

社団法人日本PTA全国協議会平成24年度通常総会が、6月28日東京都港区のホテルロンドン青山にて開催されました。会場には、全国から理事・都道府県・政令指定都市61協議会の代表者が集まりました。

会長あいさつ

本日は平成24年度通常総会へ、各地からご出席の大勢の皆様さまにご出席をいただき、誠にありがとうございます。厚く御礼申し上げます。皆さまには、日ごろよりPTA活動に尽力をいただくとともに、日本PTAに対し、深いご理解とご協力を賜りますことを、あらためて感謝をいたしております。



相川会長あいさつ(中央)

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

大切な心は、若者たちに脈々と引き継がれていると、あらためて感じさせられました。

翻って、国会では、この困難に国民を安心させるための確たる指針づくりも遅々として進まず、私たちの信頼を失わねばならない。子どもたちが憧れ、理想とする大人の姿を見せていないのは、残念ながら、ほかにもおなじみの大人ばかりです。

先日も、千葉市PTA総会で、その中も話をしました。携わってきたPTA活動を振り返る時、まず頭をよむべきは、やはり先の震災でした。

最後に、震災を亡くなられた子どもたちのご冥福と被災した子どもたちが癒えられ、笑顔を取り戻すことを願い、金ひまみずさんの歌、「こたまでしょうか」を紹介し、私の挨拶といたして終わります。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

さて、先の大震災では、被災した子どもたちの義援金・支援金の呼び掛けに対し、ご協力をいただきましたことを重ねて御礼を申し上げます。

祝辞 文部科学副大臣 高井 美穂氏



ご紹介をいただきました。文部科学副大臣の任に当たっておめでとうございます。高井美穂と申します。本日に震災発生以来、いろいろな意味でお世話になっております。本日の総会おめでとうございます。

文部科学省は、被災地における引き続き被災地における学校の施設整備の復旧や、就学支援の充実、心のケアなどに手を取り組みたいと考えております。

また、登下校中の児童の列に車が突入し、死傷者が発生するという痛ましい事故が相次いで発生いたしましたこと、極めて遺憾でございます。通路の安全も含め、学校全体の安全を確保するということは、安心して児童生徒が通学する上で当然必要なことと考えています。

まさし 昨年3月11日に起き、東日本大震災は、今でも未だに数えきれぬ被害に及んでいます。我々がどのような支援を、出来るのか、これからも考え、共に日本の一員として頑張っていく必要ではないか、大きな課題であると思います。東京都でも、数多くの児童・生徒を温かく迎え入れ、児童生徒に自らの生徒たちと交わらない指導をしていただきます。これからも、是非続けていきたいと考えております。▼本校では、生徒会を中心に、募金活動を通して被災された方々に支援してきました。これからも、さらさらと支援していきたいと考えております。

本紙は各校PTAに四部、内訳として「校長・教頭用」、「PTA会長・役員用」、「広報委員会用」、「事務局用」を目安にしています。

22世紀への人づくり～震災復興、その意味するもの～

参議院議員
元文部科学副大臣

鈴木 寛氏



ご紹介をいただきました。参議院議員の鈴木寛でございます。ご紹介をいただきました。2009年から2011年まで2年間、文部科学副大臣を務めておりました。

今日は、大変大事な総会にお招きをいただきました。この機会に、心から感謝申し上げます。

政権交代後、「新しい公共」といって、新しい公共を打ち出しました。「新しい公共」というのは、公の仕事というものは、公が担うのではなく、まさに市民の根の市民の皆さんも担っていただくという考え、官以外に公共を担う新しい担い手という意味、あるいは新しい担い手による公(新しい公共)と、公(新しい公共)を共に担っています。実は、この「新しい公共」を60年間続けていただいている学校ボランティアが、一

ついでに、公の仕事というものは、公が担うのではなく、まさに市民の根の市民の皆さんも担っていただくという考え、官以外に公共を担う新しい担い手という意味、あるいは新しい担い手による公(新しい公共)と、公(新しい公共)を共に担っています。実は、この「新しい公共」を60年間続けていただいている学校ボランティアが、一

昨年度は、約47万人でしたが、昨年度は何と64万人と、ものすごく勢いで伸びており地域の小学校、中学校を支えています。

申しあげるまでもございませんが、コミュニティ・スクールの理事長、あるいは地域協議会の会長さんは、大体、PTAのOB、OGであります。そして、副会長さんは現役のPTAの役員でございますので、コミュニティ・スクールの活動については、一言で言えば、従来のPTA活動に加えて、OB、OGが引き続き活躍していただくための枠組みというふうにご理解をいただければと思いますが、お子さんが大きくなっても、なおOB、OGが頑張っているというイメージを、ぜひお伝えしていただければと思います。これも広い意味でPTA活動のおかげというふうに、感謝をしたいと思います。



震災後、H23年3月18日(金)生徒会有志発行 大船渡市立第1中学校学校新聞「希望」

加えて理科教育です。全国学力学習状況調査に理科を追加し、この春、無事に第一回を実施し、今、採点中でございます。小学校の理科専科教員についても増やす方向です。

PTAの皆さんも、皆さんのご尽力を、この35人以下、さらに地域のPTAの方々、学生ボランティアの方々と一緒に子どもたちの教育を充実させていくということに尽きると思っております。

そういう意味で、小泉構造改革以来、2000年から10年間、ずっと教員の数を減らし続けてまいりました。子どもが自然減を繰り返してきているのは、学校の建物であったり、バスやカートを減らしてきているという事実です。

次に学校の耐震化です。3年前、07年ありました。これが、これがおかされた。東日本大震災を振り返っても、子どもや地域住民の命を救ったのは学校の建物であったことがわかります。

加えて理科教育です。全国学力学習状況調査に理科を追加し、この春、無事に第一回を実施し、今、採点中でございます。小学校の理科専科教員についても増やす方向です。

PTAの皆さんも、皆さんのご尽力を、この35人以下、さらに地域のPTAの方々、学生ボランティアの方々と一緒に子どもたちの教育を充実させていくということに尽きると思っております。

そういう意味で、小泉構造改革以来、2000年から10年間、ずっと教員の数を減らし続けてまいりました。子どもが自然減を繰り返してきているのは、学校の建物であったり、バスやカートを減らしてきているという事実です。

次に学校の耐震化です。3年前、07年ありました。これが、これがおかされた。東日本大震災を振り返っても、子どもや地域住民の命を救ったのは学校の建物であったことがわかります。



相川会長(左)と鈴木寛氏

加えて理科教育です。全国学力学習状況調査に理科を追加し、この春、無事に第一回を実施し、今、採点中でございます。小学校の理科専科教員についても増やす方向です。

PTAの皆さんも、皆さんのご尽力を、この35人以下、さらに地域のPTAの方々、学生ボランティアの方々と一緒に子どもたちの教育を充実させていくということに尽きると思っております。

そういう意味で、小泉構造改革以来、2000年から10年間、ずっと教員の数を減らし続けてまいりました。子どもが自然減を繰り返してきているのは、学校の建物であったり、バスやカートを減らしてきているという事実です。

次に学校の耐震化です。3年前、07年ありました。これが、これがおかされた。東日本大震災を振り返っても、子どもや地域住民の命を救ったのは学校の建物であったことがわかります。

加えて理科教育です。全国学力学習状況調査に理科を追加し、この春、無事に第一回を実施し、今、採点中でございます。小学校の理科専科教員についても増やす方向です。

PTAの皆さんも、皆さんのご尽力を、この35人以下、さらに地域のPTAの方々、学生ボランティアの方々と一緒に子どもたちの教育を充実させていくということに尽きると思っております。

そういう意味で、小泉構造改革以来、2000年から10年間、ずっと教員の数を減らし続けてまいりました。子どもが自然減を繰り返してきているのは、学校の建物であったり、バスやカートを減らしてきているという事実です。

次に学校の耐震化です。3年前、07年ありました。これが、これがおかされた。東日本大震災を振り返っても、子どもや地域住民の命を救ったのは学校の建物であったことがわかります。



会場の様子

加えて理科教育です。全国学力学習状況調査に理科を追加し、この春、無事に第一回を実施し、今、採点中でございます。小学校の理科専科教員についても増やす方向です。

PTAの皆さんも、皆さんのご尽力を、この35人以下、さらに地域のPTAの方々、学生ボランティアの方々と一緒に子どもたちの教育を充実させていくということに尽きると思っております。

そういう意味で、小泉構造改革以来、2000年から10年間、ずっと教員の数を減らし続けてまいりました。子どもが自然減を繰り返してきているのは、学校の建物であったり、バスやカートを減らしてきているという事実です。

次に学校の耐震化です。3年前、07年ありました。これが、これがおかされた。東日本大震災を振り返っても、子どもや地域住民の命を救ったのは学校の建物であったことがわかります。

最後に、今、被災地において創造的復興教育というものが始まっています。被災地を20世紀の東北に戻すのではなく、21世紀の新しい日本を世界を先取りした社会にすることを目指しています。(拍手)

行動する日本PTAを目指して

新会長あいさつ

(社)日本PTA全国協議会会長

武田 岳彦



また、皆様のお力を受けて、公益信託基金を立ち上げるべく、目標金額を集める努力を続けてまいります。

PTA会員の皆様が、全国各地で、子どもたちの幸せを願うから活動を展開されていることに、心から敬意を表します。また、常日より日本PTAに対する暖かいご理解、ご支援を賜り、心から感謝を申し上げます。

東日本震災から一年以上が経過し、被災地の復興はこれからが本格的に始まります。昨年、全国に呼びかけた「心のききなびキャンペーン」は、多くの皆様からご協力をいただき、6月25日現在で、1億4529万7295円の支援金が集まりました。震災直後からの累計では、4億を超えたこととなります。ご協力に、深く御礼を申し上げます。



新年度へバトンタッチ

動するとは誇るべきことです。子どもたちが、活躍する日本PTAを目指します。責任を持って、ご支援ご協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

議事はすべて承認

議事入り活発な審議を経て、すべての議案が承認された。提出された議案は次の通り。

- 平成23年度事業報告について
- 平成23年度収支決算報告について
- 平成23年度監査報告について
- 平成24年度基本方針・活動計画(案)について
- 平成24年度収支予算案について
- 平成24年度総会宣言・決議(案)について

平成24年度 新役員・理事・監事紹介

- 〈会長〉 武田 岳彦 (山形県)
- 〈副会長〉 佐藤 辰夫 (福島県)
- 磯田 和男 (さいたま市)
- 長屋 博久 (京都市)
- 谷 明彦 (徳島県)
- 伊藤 一義 (北九州市)
- 〈常務理事〉 安藤 大作 (三重県)
- 富永 大輔 (大分県)
- 〈監事〉 内田 幸雄 (仙台市)
- 小原 良 (川崎市)
- 中山 貴志 (岐阜県)
- 藤谷 幸弘 (岡山県)
- 〈理事〉 徳谷 純代 (北海道)
- 安藤 正之 (新潟県)
- 高橋 秀典 (千葉県)
- 佐野 充則 (静岡県)
- 寺本 亮一 (名古屋市)
- 金丸 公 (京都府)
- 武内 一登 (神戸市)
- 開地 義明 (広島市)
- 林 俊作 (山口県)
- 西岡 豊 (佐賀県)

平成二十四年度通常総会 宣言・決議

宣言

社団法人日本PTA全国協議会は、すべての児童や生徒が心身ともに健康でたくましく、心豊かに成長することを願い、全国一、〇〇〇万会員の総意に基づき、研究、実践の成果をもとに積極的に活動を展開し、我が国の教育振興に大きく寄与してきた。

平成二十四年度通常総会を開催するにあたり、我々は児童や生徒の健全育成並びに、安全、安心の確保に総力を結集するとともに、昨年の東日本大震災で被災した地域の子どものための教育支援に積極的に取り組む。また、いじめや不登校をはじめとする諸問題の解決に尽力し、子どもたちが「生きる力」を育み、心豊かに人間として成長できるように、家庭、学校、地域社会並びに関係諸機関との連携を密にし、日本の教育力の強化を推進し、公益社団法人移行後は、その使命を存分に果たすことを誓うものである。

決議

平成二十四年度通常総会における宣言に基づき、具体的目標として、次の事項を決議する。

- 一、児童や生徒の安全や安心を確保するため、家庭、学校、地域社会並びに関係諸機関が互いに連携を密にし、生命や人権を尊重する教育力の向上を図るとともに、健全な食育に関心をもち、心身ともに健康でたくましく「生きる力」を育む児童や生徒の育成をめざす。
- 一、各地方協議会単位PTAとの連携を一層深め、教育に関する諸問題の解決のため、情報の発信や共有を行い、「共に学びながら活動するPTA」としてのネットワークに努める。
- 一、東日本震災を過期、孤児となった子どもたちへ支援するための募金活動を、各地方協議会や単位PTAと連携して継続的に活動する。
- 一、教育関係者の改善や整備を図るため、関係諸機関への要望や陳情を行う、積極的に啓発活動を行うこと、社会環境の改善に努める。
- 一、関係諸機関との連携のもと、いじめや不登校、また児童虐待等の根絶に向け、子どもたちが他者思いや心と、自己を大切にすることの育成に努めるとともに、国際交流を通してグローバルな心育成と、国際理解の向上に努める。
- 一、児童や生徒に関わる有害情報の規制強化を求めるとともに、会員への情報モラル教育を積極的に推進し、変化の著しい情報社会への対応を図る。
- 一、本法人の活動をさらに充実させるために組織機能を強化し、会員の期待にこたえていくように努める。

平成23年度調査報告集発行

環境対策委員会・教育問題委員会

平成23年度に実施した「Wi-Fiの利用状況」や「メディアに関する意識調査」と「教育に関する保護者の意識調査」の結果がまとまりました。子どもとメディアに関する意識調査については、本調査は、平成14年度より実施し、学校5年生、中学校5年生、高等学校1年生、保護者85・6%、小学校5年生保護者85・6%、中学校5年生保護者75・8%でした。

本調査は、平成14年度より実施し、学校5年生、中学校5年生、高等学校1年生、保護者85・6%、小学校5年生保護者85・6%、中学校5年生保護者75・8%でした。調査結果など詳しくは、日本PTA全国協議会のホームページに掲載されています。ホームページアドレス <http://www.jppta.or.jp>

「子どもとメディア」に関する意識調査は、平成14年度から平成17年度まで「テレビメディア・インターネット調査」が実施されている。調査対象は、平成23年度調査では過去9年の調査の基本を継続しながら、「新学習指導要領」の実施とその学習の保護者の周知と、「学力の問題」(道德教育の充実への期待)「教員の資質能力の向上」の方策「1学校評価」の情報化「などの学校教育と、PTA(保護者)としての役割」(保護者)としての「家庭での読書」教育「保護者の子どもとのコミュニケーション」とりかたに、各地で見直しが進められている学校における「防災管理」の様子を加えた4の調査項目とし、小学校5年生および中学校2年生の保護者(PTA会員)各2400人を対象に平成23年11月~12月に実施した。回収率は小学校5年生保護者82・1%、中学校2年生保護者81・2%でした。

「心のきずな61キャンペーン」

～全国からの思いやりに、ありがとうの感謝をこめて～

平成23年3月11日から、1年と4ヶ月が過ぎました。震災直後の義援金募集の呼びかけに、2億6千万を超える義援金が寄せられました。被災地にはすでに2億1千万円が届けられ、被災地の子どもたちへの支援に使われています。

また、この義援金募集について一年が経過する時期から、「心のきずな61キャンペーン」として、新たな支援金の募集に切り替えて展開しました。

全国一斉「街頭募金活動」は、PTA会員のみならず、街の人達へも、被災地の子どもたちへの継続支援を呼びかける活動となり、600万円を超える支援金が寄せられました。

また、全家庭を対象に行われたチラシによる支援金の募金活動には、周知不足や年度替りの多忙な時期に行われたにもかかわらず、暖かいご協力を賜り、1億4千万円(6月現在)を超える支援金が寄せられました。

さらに、義援金とともに、「お小遣いを被災地の子どもたちへ届けてください」などの子どもたちの思いやりに溢れる応援メッセージがたくさん寄せられ、胸が熱くなると同時に、感謝の念が湧き上がりました。

全国の皆様の暖かいご協力に、心から感謝を申し上げます。

～更なる支援に向けて～

7月11日に、被災地を訪れました。

被災地の小学生たちの多くは、仮設住宅からバスでの通学を余儀なくされています。学校では運動場も満室に確保できず、安心して身体を使う場所が十分ではありません。多くの子どもたちが、運動不足に悩まされています。

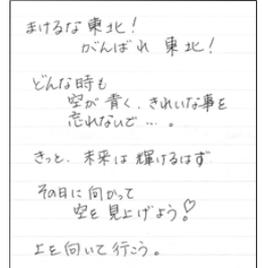
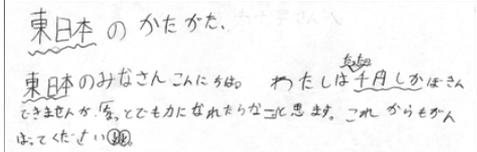
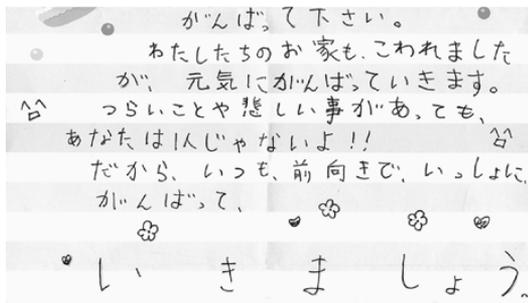
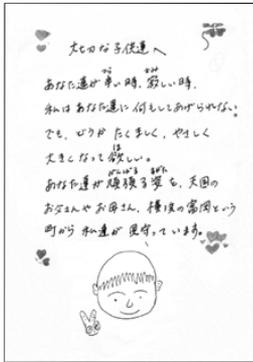
学習面でも従前の環境には程遠く、中学生の多くは進学に対する不安を抱えています。学校施設も被災学校の児童生徒を受け入れながら、仮設校舎などの緊急的な措置で対応している過ぎません。加えて、放射能の影響を受けている地域では、子どもたちに大きな影響を与えています。

日本PTAは、1千万人をこえる会員の力を結集し、被災地の子どもたちに、支援の手を差し伸べましょう。被災地の子どもたちは、私たちみんなの子どもです。

心のきずな61キャンペーンの目標である9億5千万を一刻も早く集め、公益信託基金を早期に設立し、助成を開始しなくてはなりません。

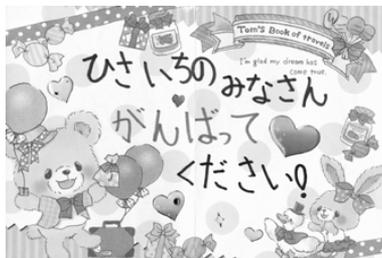
私たちが今、やるべきことは、会員みんなが本気になることです。小さな一滴が集まり源流に、源流が集まり川になり、やがて大河になった私たちの思いが、被災地へと途切れることなくそそぎ続けることを信じて。

日本PTA全国協議会 会長 武田岳彦

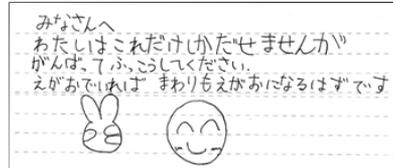
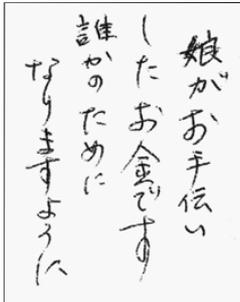
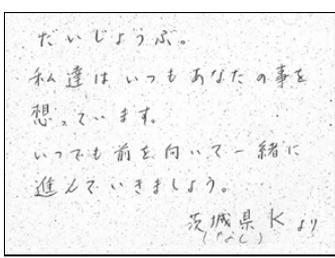
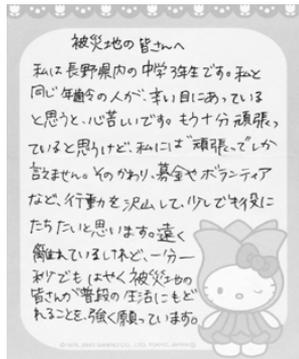
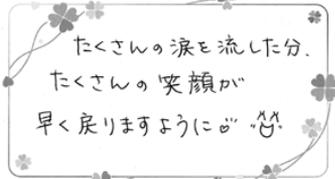
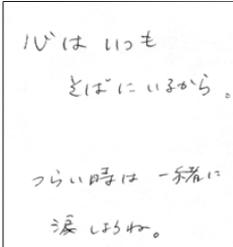


被災地へ思いを寄せ、心を一つに

～*皆様からの応援メッセージ～



募金袋の中に同封されていた被災地へのメッセージのほんの一部をご紹介します



第26回日中友好少年少女の翼

中学2年生及び3年生118名の参加

平成24年3月26日(月)～31日(土)



万里の長城にて

第26回「日中友好少年少女の翼」は、中学2年生の参加希望者が予定の人数に達しなかったために、東日本大震災でやむを得ず中止になった昨年の参加予定者で特に参加を希望する中学3年生14名が特別に参加。3年生だけの班を作った。全国から集まった見ず知らずの同じ年の子どもたちは、25日の初対面グループ編成、リダーの先生の入念な準備の後、当初の戸惑いと不安の表情から

笑顔が溢れた。翌26日の出発日は、朝早くから準備。いつもとは異なる保護者から離れて、同世代の仲間との海外研修、緊張しない方がおかしかった。しかし、前向きで何事にも柔軟な子どもたちの中には、晩で成長のあとが見られる子も、北京に到着。飛行機を降りて北京動物園。夜には、はじめての北京での食事。まだおとなしくも、役員よりリダーの先生の腕として気を配りながらも自身の立ち位置を探し、子どもたちと同様の不安を抱えながら研修がスタートした。

翌日は、北京師範大学第二附属中学での中国の子どもたちと交流し、片言の英語で何とか意思伝っていたが、中国の子どもたちが話す流暢な英語は、それよりも驚かされた。それが刺激となって英語の向上を目指して欲しい。歌やダンス得意などでお互いに交流し大きな成果があった。互いの文化を超えて理解し合おうとの難しさや大切さを感取った。また、故宮、天安門広場、万里の長城などの見学。そして水墨画や太極拳の体験。たなへ、のりあき。

愛知県小中学校PTA連絡協議会は、昭和24年に結成された。現在は尾張地区と三河地区を母体に、県内39都市1016小中学校PTAで組織され、40万人を超える会員で構成されている。結成以来、子どもたちの健全育成、各種研修を通じての会員の見識づくりに、愛知県教育の充実・発展に貢献してきた。平成24年度は、第3年次の取組となる

社会の急激な変化は、学校のみなさんや地域にも正対した対応を求めてきた。近年は、家庭や地域の教育力の低が懸念され、子育ての難しい時代と言われている。そこで、本協議会では、社会変化や時代の要請を意識して、5年サイクルで目標や取組の重点を見直し、活動を推進している。平成24年度は、第3年次の取組となる

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68



母親代表研修会

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

「県自慢」

愛知県PTA シリーズ68

「心響き合え 愛と知で」

夢を語る—子どもたちの架け橋に

愛知県小中学校PTA 連絡協議会会長

愛知県PTA シリーズ68

PTAと地域、学校の三者が一体となって

◇はじめに

本校は、千代田区のほぼ中心にある神保町地区にあり、本屋敷で有名な町です。本屋敷で有名な町ですが、大学や文化施設、企業の本社など学問、経済、文化等の中心地にある公立中学校です。皇国も近く、にじり、にぎりに囲まれた地域の中で、ここに通学する生徒がいるのか、と、来校される方々からよく聞かれます。昼の人口が100万人、夜の人口が4万人と言われているのが、この空間が出るのは当然なことだと思います。千代田区外から通学してくる生徒も半数近くは、め通学する生徒もたくさんいます。これが他地区の中学校と大きく異なる点だと考えています。

都内の小・中学校では、統廃合が進んでおり学校の数の減少が毎年のように報告されていますが、千代田区でも同様で、以前5校あった中学校が現在は3校になりました。2校の中学校がその中心地にある公立中学校です。

本校に通学し、卒業したことに強い誇りを持つ卒業生が大勢おられます。PTAは勿論、同窓会の方たちも学校にとっての心強い味方・応援団になってくれています。本校の卒業生の方たちが第一線で活躍されていて、何か縁があれば「神田一橋のために」という気持ちで、すぐに対応してくれます。人的・物的・精神的な側面から広い支援をいただいているおかげです。私たちが学校の職員に努めることは重要であり、さらに、研修等を通して大人がより高い見識を身につけ、磨かれた大人とのふれあいの中で、子どもたちの人間性や成長、人格形成ができるように努めていきたい。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

Column

学校の窓から



シリーズ④

それだけに、特色を出し、ともに長年わたって培ってきた伝統と誇りを大切にしながら、新しい教育課題を生徒・保護者・地域住民・学校が丸ごと取り組んでいきます。

本校のPTAは、先ほど述べたように千代田区外から通学してくる生徒が多くいるため、保護者の方を中心としたPTA活動は、できる範囲の中で活発に活動しています。両親が勤めて

本校に通学し、卒業したことに強い誇りを持つ卒業生が大勢おられます。PTAは勿論、同窓会の方たちも学校にとっての心強い味方・応援団になってくれています。本校の卒業生の方たちが第一線で活躍されていて、何か縁があれば「神田一橋のために」という気持ちで、すぐに対応してくれます。人的・物的・精神的な側面から広い支援をいただいているおかげです。私たちが学校の職員に努めることは重要であり、さらに、研修等を通して大人がより高い見識を身につけ、磨かれた大人とのふれあいの中で、子どもたちの人間性や成長、人格形成ができるように努めていきたい。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

また、お隣の中学校のPTAと合同の研修会も行っています。最近の教育課題について講師の話を聞いたりする研修会や情報交換会なども毎年行っており、各中学校校長、PTAの正副会長さんたちが懇親を深めた見聞を広げたいという思いを込めて行っています。

「たのしい子育て全国キャンペーン」

～親子で話そう！家族のきずな・我が家のルール～三行詩募集について

親子で話そう！
家族のきずな・我が家のルール



親子の会話をきっかけにコミュニケーションから生まれる家族の「きずな」
家庭でのルールや「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活環境づくりなど
親子で話しあったり一緒に取り組むことの大切さについて
家庭での日常のやりとりから取り出したことを短文に表現した「三行詩」を募集します！

応募の方法

- 募集期間 平成24年7月1日(日)～平成24年9月5日(水)
- 募集対象 小学生、中学生、保護者、教職員等
- 選考 選考委員会が選定し、表彰状を贈呈します。(表彰状は12月に送付予定です)
- 応募方法 三行詩(短文)、氏名、年齢、学校名、住所、電話番号を記入の上、9月5日(水)までに郵送してください。

応募先

- 在籍する学校のPTA
- 文部科学省生涯学習政策局 男女共同学習課 事務局 〒100-8950 東京都千代田区品川3-2-2

三行詩の受賞作品(一部)

この作品は文部科学省生涯学習政策局のホームページに掲載いたします。

大塚 又さんの息子のみなさん 又さんお母さんお父さんおじいさんおばあさん
お母さんお父さんおじいさんおばあさん
お母さんお父さんおじいさんおばあさん
お母さんお父さんおじいさんおばあさん

主 席 文部科学省 <http://www.mext.go.jp/>
社団法人日本PTA全国協議会 <http://www.nipponpta.or.jp/>
文部科学省 社団法人日本PTA全国協議会

都市化や核家族化、少子化など、子育てや家庭教育を支える地域の環境が変化中、改めて、親子のコミュニケーションなどによって育まれる家族のきずなや、家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった子どもたちの基本的な生活環境づくりなど、親子で話し合ったり、一緒に取り組むことを社会全体で呼びかけていくため、これをテーマとする三行詩を募集し、表彰を行います。

- 募集対象 小学生、中学生、保護者、教職員等
- 募集内容
 - ・親子で話そう・家族のきずな・我が家のルールに関する三行詩
 - ・家庭での日常のやりとりなどから思いつた親子のコミュニケーションなどによって育まれる家族のきずなや、家庭のルール、「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活環境づくりなど、親子で話し合ったり、一緒に取り組むことの大切さを短文に表現したものであること。
 - ・三行詩とは、三行程度の短文の意味合いであり、必ずしも三行である必要はなく、俳句のようなものでも構わない。
- 募集方法
 - ・文部科学省、社団法人日本PTA全国協議会のホームページに掲載
 - ・教育委員会、都道府県、政令指定都市のPTA連合会・協議会等を通して、公立の各小学校、中学校PTA等にて募集
- 応募方法
 - ①三行詩募集実施要項に従って応募ください。
 - ②お子さんが公立学校に在籍する場合、子どもが在籍する学校等に提出してください。
 - ③その他の場合、文部科学省生涯学習政策局男女共同学習課 家庭教育支援室 三行詩募集係宛に郵送してください。
- 主催 文部科学省・社団法人日本PTA全国協議会

民放連との懇談会

日本PTAと社団法人日本民放連放送連(民放連)との懇談会が、平成24年6月7日(水)午前10時30分から12時過ぎまで、東京都千代田区稲尾井町の民放連3階の第8会議室で開催された。この懇談会は平成9年から始まり、今年で16回目となる。

懇談会には、日本PTAから相川会長はじめ副会長、理事、常任幹事の13名が、民放連から民放テレビ各社の番組編成・制作の責任者など14名が参加した。冒頭、民放連を代表して平塚隆司テレビ朝日取締役(放送の自立に関する専門部会部会長)の挨拶、日本PTAを代表して相川会長の挨拶の後、民放連から放送倫理向のため「青少年に見てほしい番組」を送り届けてほしいという要望と、民放連の良活動が知られてほしい。もっととりまわりたいという放送局のスタッフと中学生がされた。



開会の挨拶をする相川会長

平成二十四年六月七日

テレビメディアにおける子どもたちの健全育成への配慮に関する要請書

社団法人 日本PTA全国協議会
会長 相川 敬

少子化や核家族化の定着によって、家庭において子どもと関わる人の数が減少し、共働き家庭の増加の中で、家族とふれあう時間が減少しています。一方、子どもが自由に安全に遊ぶ場所の減少、テレビ放送の多チャンネル化、携帯電話やネットワーク技術の普及によって、子どもを取り巻く環境は大きく変化しており、これらメディアの情報が子どもにも与える影響は計り知れないものがあります。特に、東日本大震災により親を亡くした子どもたちの健全な成長は私たちの願いであり、メディアの役割も大切であると考えます。

このような中、今年度も「子どもとメディアに関する意識調査」を実施しました。今回の調査結果を見ると、親たちはテレビメディアに関し、8割近くが「テレビ」を好意的に受け止めており、「見せたくない番組」より「見せたい番組」の方が数値が高くなっています。また、「見せたくない番組」における「スポンサーの責任」の数値が漸減しており、親たちの間では、テレビ視聴は送り手の問題もあるが受け手の責任という意識が芽生えつつあります。このことについて、テレビ各局のご努力も多々あるところであります。

しかしながら、子どもにとって「好ましくない番組」も未だみられるところであり、人格形成期の子どもに対し、有害情報に直接さらされる危険が増え続けることは看過できません。このため、第一義的には家庭の責任であるとの認識しつつも、番組制作会社、放送会社におかれても人格のある法人として健全な社会を構成する責任は保護者と同じであり、十分な配慮が必要と考えます。自由で豊かな日本であるために、表現の自由を尊重しつつも、子どもたちの健全育成を図る上で、放送各社、制作会社に左記の事項について強く要望いたします。

記

一、番組の制作及び放送にあたり、テレビメディアの影響力とテレビ局の社会的責任を十分に認識され、今回の調査を真剣に受けとめ、今後の番組放送に反映させていただきたい。

二、番組の中で、子どもを消費者としてのみ捉えず、また、携帯や有害サイト等の情報を教育環境の浄化の観点から配慮して放送していただきたい。

一、メディアリテラシーの重要性を認識し、視聴者と双方関係を持つ議論を深めていただきたい。

(付言) 日本PTA全国協議会は、児童生徒に多大な影響を及ぼすテレビメディアのみならず、インターネット等広範なメディアに対し、今後更重大な関心を持って臨み、子どもたちの健全育成の観点から好ましくない番組等のコンテンツについて関係諸団体に広く呼びかけ、内容改善のための世論形成に努めてまいります。

